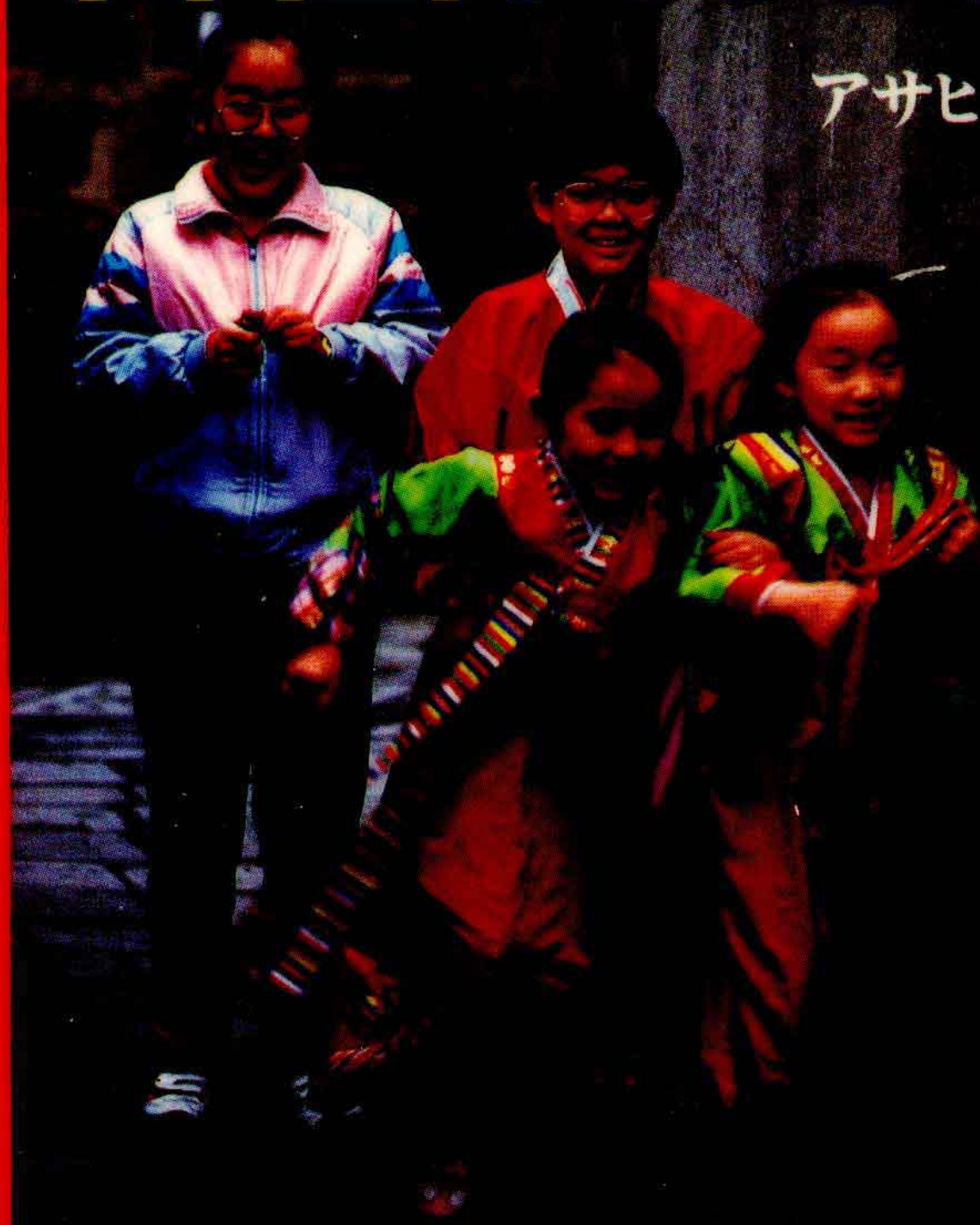


한 국 재 발 견

韓国再発見

アサヒグラフ編



朝日文庫

韓国再発見

朝日文庫

1988年3月20日 第1刷発行

定価720円

編 者 アサヒグラフ

発行者 八尋舜右

印刷製本 凸版印刷株式会社

発行所 朝日新聞社

〒104-11 東京都中央区築地5-3-2

電話 03(545)0131 (代表)

編集=図書編集室 販売=出版販売部

振替 東京0-1730

© ASAHI GRAPH 1988 Printed in Japan

韓国再発見

アサヒグラフ編

韓国地図



目次

韓国の歌・韓国の心

他郷暮らし 6 淋しき旅人 8 アリラン 10

涙に濡れし豆満江 12 木浦の涙 14 恨五百年 16

雨降る湖南線 18 愛の迷路 20 朝露 22

パワフルでラジカルな魂の歌 24 五木寛之

三多島便り 28 カスマプゲ 30

民衆の心を歌う 35 李美子

釜山港へ帰れ 38

民謡、パンソリから学ぶ 42 趙容弼

韓国人——恨の内と外 45 金烈圭

食文化——野菜と肉の融合 60

ドラマチック・シネイ ソウル 68

ソウルの魅力 多面の顔をもつ街 78 康炳基



城廓都市ソウルの面影……………	孫禎睦	88
ソウル版 元氣印の人びと……………		97
一年の暮らし……………	102	
若者インタビュー「あなたは今？」……………		105
日本のイメージ・日本への関心……………	111	
韓国の芸能界 スターアルバム……………		114
韓国映画の昨日・今日・明日……………	李長鎬	120
ソウルの五大故宮……………		124
「民主化」でなった国民的合意……………	趙甲済	129
南北改善への気運が高まった……………	金学俊	137
韓国人の思考・四つのパターン……………	李圭泰	142
両班の神髄・ソンビ精神……………	146	
長寿と家族主義……………		150
韓国シャーマニズムへの大いなる関心……………	後藤明生	158
芸能と仮面……………		168



仏教美術のふる里

172

宗教の現状

178

古陶磁の世界

182

太陽と月と地球の造形そのもの

宗左近

188

古代史 海をへだてた交流

194

韓国の旅で考えたこと

森浩一

201

王冠の系譜をたどる

東潮

213

前方後円墳 発見に期待

姜仁求

220

壁画 高松塚をさかのぼる

李殷昌

224

韓国の秘境

228

自然観 あるがままに愛す

233

あしがき

238



韓国^{コリア}の歌・韓国^{コリア}の心

韓国^{コリア}の歌には、

われわれの心の奥底に眠る

感情を揺さぶり起こすものがある。

男女の別れをテーマにしながら、

そこには、過酷な歴史の

中に生きた民族の心が

みなぎっているからだろう。



他郷暮らし

타향살이
タヒンサリ

他郷に暮らして幾年月

指折り数えりや

故郷を離れて十余年

青春ばかり老いてゆく

金能人・作詞、孫牧人・作曲（一九三三年）。

日本によって土地を奪われた人は四、五百万といわれる。他郷暮らし、あるいは客地生活というとき、懐しい故郷への想いはつづくる。



淋しき旅人

ナグネッルム
나그네 설음

今日も歩き続けるあてどなく
過ぎし足跡ごとに涙が溜る
波止場の汽笛に恋人しのべど
旅人さすらう旅路果てなし

高麗星・作詞、李在鎬・作曲（一九二九年）。
故郷を追われた人びとは、家族を案じつつ
仕事を求めてシベリアから中国、九州・沖
縄までさすらった。人びとの境遇を重ねて
史上最大のヒット作といわれる。





右 全州市郊外金山寺参道にて
左 全羅南道求礼 韓国の峠はみなアリラン峠だ

アリラン

아리랑

アリラン アリラン アラリヨ
アリラン峠を越えていく
わたしを捨てていくあの人は
十里も行かず足が痛む

千年来の代表的口伝民謡。種類も
多く、各地で歌詞も旋律も異なる。
これはソウルを中心とした京畿道
のものだが、民族を象徴する歌に
なったのは十九世紀末の国家・民
族の存亡が危ふまれたときから。
十里は日本の一里。

涙に濡れし豆満江

トウマンガン

눈물 젖은 두만강

豆満江の青い水に艫をこぐ船頭

あの人を乗せた船はどこへいった

懐しいあの人よ懐しいあの人よ

いつの日に帰るのか

金用浩・作詞、李時雨・作曲（一九三五年）。

中国、ソ連、朝鮮との境をなし、日本海にそそぐ川だが、歌詞は、国の独立のために故郷をあとにした夫を恋うる妻の実話からとったといわれる。「二ム」には恋人、民族、故郷、愛、神などの意味がある。





琵琶湖の名勝・島漂三峰 アシュモニ
(おはさん) が美しい風景の中で洗たく



木浦の涙

모호의 눈물
モウホエ ノンムル

船頭の船歌が遠くにかすみ

三鶴島も波濤をかぶる

埠頭の乙女が袖ぬらす

別れの涙よ木浦は哀し

文二石・作詞、孫牧人・作曲（一九三四年）。

米と綿花の積出し港で、中国貿易も盛んだった木浦。男女の別離を歌う裏に、三〇年代の民衆の怨念がこめられているという。韓国演歌の第一号だ。

